

# 交通安全テスト

(中学・高校生用)

正しいものには○を、まちがっているものには×を記入してください。

- ① 歩行者用路側帯（白色実線が2本）は自転車で通行することはできない。

☐

- ② 「自転車歩道通行可」の標識がある歩道を走る際は、歩道の車道寄りをすぐに停止できる速度で走行する。

☐

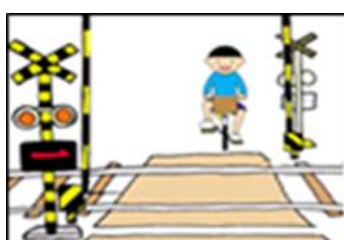
- ③ 下図の信号が青色の灯火の場合、自転車は直進、左折、右折をすることが出来る。

☐

- ④ 下の絵の中で交通ルールを守っていない人はいない。

☐

- ⑤ 踏切では一時停止をし、安全を確かめ、自転車を押して渡る。

☐

# 交通安全テスト

平成29年5月号

## 解答・解説 (中学・高校生用)

### ① 歩行者用路側帯（白色実線が2本）は自転車で通行することはできない。【○】

A：歩行者用路側帯内は自転車で通行することが出来ない。

● 道路交通法第17条第1項（通行区分（抜粋））

車両は、歩道又は路側帯と車道の区別のある道路においては、車道を通行しなければならない。

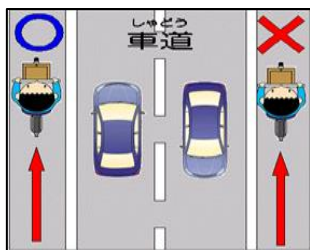
● 道路交通法第17条の2（軽車両の路側帯通行（抜粋））

軽車両は、前条第1項の規定にかかわらず、著しく歩行者の通行を妨げることとなる場合を除き、道路の左側部分に設けられた路側帯（軽車両の通行を禁止することを表示する道路標示によって区画されたものを除く。）を通行することができる。

◎ 歩行者用路側帯・・・軽車両の通行を禁止する道路標示

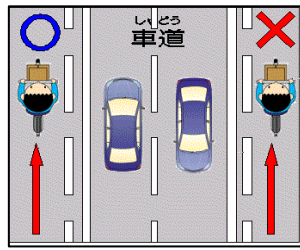
#### <指導のポイント>

路側帯は3種類あります。



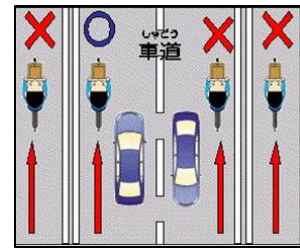
※ 路側帯  
(白い1本線)

左側の路側帯は通行できる。



※ 駐停車禁止路側帯  
(白い1本線と破線)

左側の路側帯は通行できる。



※ 歩行者用路側帯  
(白い線が2本)

通行できない。  
車道の左端を走りましょう。

※ 路側帯を通行する場合は、歩行者の通行を妨げないような速度と方法で通行しましょう。

### ② 「自転車歩道通行可」の標識がある歩道を走る際は、歩道の車道寄りをすぐに停止できる速度で走行する。【○】

A：歩道の中央から車道寄りの部分をすぐに止まれるような速度で走行しましょう。

※ 道路交通法第63条の4第1項（自転車の歩道通行：概要）

道路交通法施行令第26条（普通自転車により歩道を通行することができる者）

- ・ 自転車歩道通行可の道路標識等がある場合
- ・ 児童及び幼児（13歳未満の子ども）  
70歳以上の者  
身体の不自由な人



自転車歩道通行可

歩道通行可を示す標示

の場合

- ・ 道路工事をしているとき、駐車車両や交通量が多いなど、車道を安全に通行できない場合は、歩道を通行することができる。

● 道路交通法第63条の4第2項（自転車の歩道通行（抜粋））

普通自転車は、当該歩道の中央から車道寄りの部分（道路標識等により普通自転車が通行すべき部分として指定された普通自転車通行指定部分があるときは、当該普通自転車通行指定部分）を徐行しなければならず、また、普通自転車の進行が歩行者の通行を妨げることとなるときは、一時停止しなければならない。

ただし、普通自転車通行指定部分については、当該普通自転車通行指定部分を通行し、又は通行しようとする歩行者がないときは、歩道の状況に応じた安全な速度と方法で進行することができる。

● 交通の方法に関する教則第3章第2節2（走行上の注意（抜粋））

(8) 歩道を通るときは、普通自転車は、歩行者優先で通行しなければなりません。この場合、次の方法により通行しなければなりません。

ア すぐ停止できるような速度で徐行すること。ただし、白線と自転車の標示によって指定された部分がある歩道において、その部分を通行し、又は通行しようとする歩行者がいなく、歩道の状況に応じた安全な速度（すぐ徐行に移ることができるような速度）と方法でその部分を通行することができます。

イ 歩行者の通行を妨げるおそれのある場合は、一時停止すること。

<指導のポイント>

歩道は歩行者優先ですので、自転車は歩行者の通行を妨げないように歩道の車道寄りを徐行しなければなりません。

また、スピードを出して歩道を走行することは非常に危険ですので、やめましょう。

③ 下図の信号が青色の灯火の場合、自転車は直進、左折、右折をすることが出来る。【×】

A：自転車は、直進又は左折することが出来る。

● 道路交通法施行令第2条第4項

公安委員会が、人の形の記号を有する青色の灯火、人の形の記号を有する青色の灯火の点滅又は人の形の記号を有する赤色の灯火の信号を表示する信号機について、当該信号機の信号が歩行者及び自転車に対して意味を表示するものである旨を内閣府令（道路交通法施行規則第3条の2（信号の表示））で定めるところにより表示した場合における当該信号の意味は、次の表の上欄に掲げる信号の種類に応じ、それぞれ同表の下欄に掲げるとおりとする。

人の形の記号を有する 赤色の灯火	人の形の記号を有する青色の灯火 の点滅	人の形の記号を有する青色 の灯火
1 省略 2 自転車は、道路の横断 を始め、又は停止位置を 越えて進行してはなら ないこと。 3 省略 4 省略	1 省略 2 自転車は、道路の横断を始めでは ならず、また、当該信号が表示され た時において停止位置に近接して いるため安全に停止することがで きない場合を除き、停止位置を越え て進行してはならないこと。	1 省略 2 自転車は、 <u>直進をし、又は左折することができること。</u>

※ 道路交通法第7条（信号機の信号等に従う義務（抜粋））

道路を通行する歩行者又は車両等は、信号機の表示する信号又は警察官等の手信号等に従わなければならない。

※ 交通の方法に関する教則 第1章第2節1（信号の意味（抜粋））

（3）人の形の記号のある信号は、歩行者と横断歩道を進行する普通自転車に対するものですが、その他の自転車もその信号機に「歩行者・自転車専用」と表示されている場合は、その信号機の信号に従わなければなりません。

※ 交通の方法に関する教則第3章第2節3（交差点の通り方（抜粋））

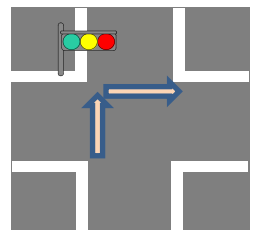
（1）信号が青になってから横断しましょう。

なお、「歩行者・自転車専用」と表示されている歩行者用信号機がある場合や横断歩道を進行する場合は、歩行者用信号機の信号に従わなければなりません。

#### <指導のポイント>

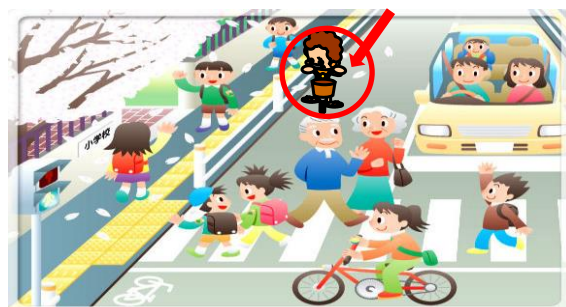
問題の信号では、自転車は直進し、左折することができるという意味ですので、右折するときは交差点の向こう側まで直進し、その地点で向きを変え、次に進むべき方向の信号が青になるのを待ちます。

また、信号は「進め」ではなく、「進むことができる」という意味ですので青信号に変わってもすぐに進むことなく、周囲の安全確認をしっかりとしてから進みましょう。



#### ④ 下の絵の中で交通ルールを守っていない人はいない。【×】

A：守っていない人はいる。交通ルールを守っていないのは右側通行の自転車である。



● 道路交通法第17条第4項（通行区分（抜粋））

車両は、道路（歩道等と車道の区別のある道路においては車道。）の中央から左の部分  
を通行しなければならない。

● 道路交通法第18条第1項（左側寄り通行等（抜粋））

車両（トロリーバスを除く。）は、車両通行帯の設けられた道路を通行する場合を除き、  
自動車及び原動機付自転車にあっては道路の左側に寄って、軽車両にあっては道路の左側  
端に寄って、それぞれ当該道路を通行しなければならない。

※ 道路交通法第2条第1項第8号・第11号（概要）

- ・ 車両とは自動車、原動機付自転車、軽車両及びトロリーバスをいう。
- ・ 自転車は、軽車両に分類される。

<指導のポイント>

車は左側通行です。

車の仲間である自転車も左側通行となり、車道の左側端を通行しなければなりません。

⑤ 踏切では一時停止をし、安全を確かめ、自転車を押して渡る。【○】

A：踏切では自転車を押して渡るようにしましょう。

● 道路交通法第33条第1項（踏切の通過（抜粋））

車両等は、踏切を通過しようとするときは、踏切の直前（道路標識等による停止線が設  
けられているときは、その停止線の直前。）で停止し、かつ、安全であることを確認した  
後でなければ進行してはならない。

● 交通の方法に関する教則 第3章第2節2（走行上の注意）

- (6) 踏切では、一時停止をし、安全を確かめなければなりません。踏切では、自転車を押  
して渡るようにしましょう。

<指導のポイント>

踏切では渡る前に必ず、一時停止をして安全確認をし、自転車から降りて押して渡る  
ようにしましょう。

また、踏切の警報器が鳴っているときや遮断機が降り始めてからは踏切に入ってはい  
けません。